

令和2（2020）年度

## 地域学校協働活動推進員養成研修⑤ 実施報告

実施日：令和2（2020）年9月23日（水）

地域学校協働活動推進員養成研修（第5回）では、地域学校協働活動推進員として必要な「地域情報収集のポイント」について学び、受講者自身が主体となって事業を計画・立案し、活動を進めていくノウハウについて理解を深めました。

### 講話・演習「地域情報の収集・活用の方法

～多様な主体との連携・協働～

小山市市民活動センター「おやま〜る」

事務局長 小針 協子 氏

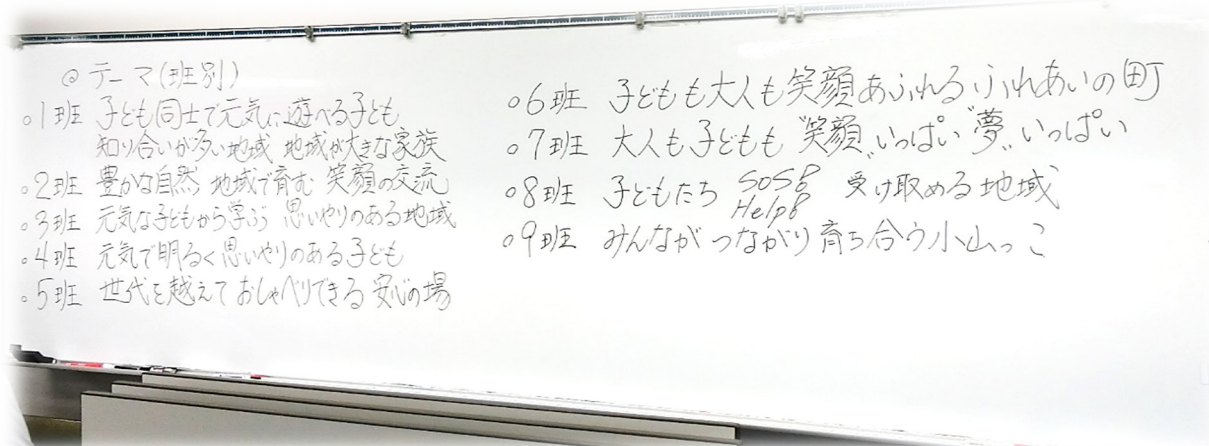
小針氏は、とちぎボランティアNPO センターぽ・ぽ・らに13年間勤務された後、現在は小山市市民活動センター「おやま〜る」において事務局長を務められ、長年、市民活動や地域活性化のための取組に関わっていらっしゃいます。



午前は、「地域情報の収集・活用はコミュニケーションから」をテーマに、どのようにすれば地域情報を収集できるのかについて学びました。その中で、今までのコミュニケーションの在り方を振り返り、対話のポイントを確認しました。また、現状を効果的に発信することで、活動につながる新たな情報を得られる可能性がある「発信」の重要性についても、説明いただきました。

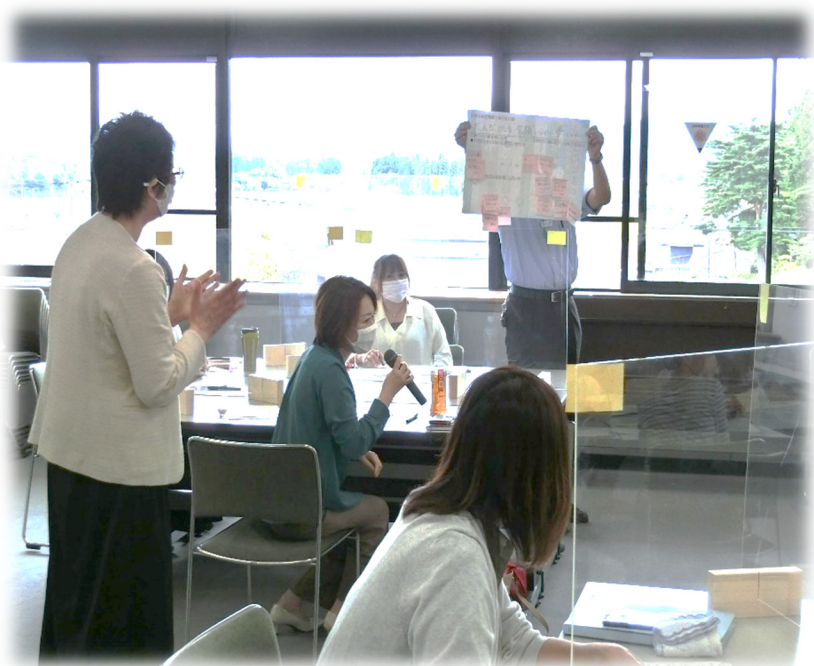
その後、学校と地域で「子どもたち」や「地域」の理想の姿を考え、グループ内で共有しました。そして、テーマを決め、その姿に近づくために自分たちができることを考えました。どのグループも様々なアイデアを出しながら取り組んでいました。その様子からは、自分たちの地域をよりよくしたいという受講者の熱い思いが伝わってきました。

### 各班で考えた「学校と地域のありたい姿」のテーマ ↓



午後は、午前の演習で考えた自分たちができる活動の一つ抽出し、実際に事業を計画するワークショップを行いました。事業を計画するポイントをおさえた9マスのマンダラシートを活用し、各班ごとに事業立案を進め、計画する際のポイントを学びました。最後は、いくつかの班から考えた事業内容を発表してもらい、受講者全員でそれぞれの視点を共有し、さらに自分たちの班の内容を見直しました。

地域学校協働活動推進員として、自らが地域情報を収集し、事業の企画ができるスキルを持つことは、今後の活動の幅を大きく広げるものとなります。受講者自身が主体となり、事業計画を作成することは難しい課題でしたが、その楽しさとともに地域住民が中心となって活動をする大切さを感じることができたようです。



#### 【受講者の感想から】

- 複数のメンバーで、アイデアを出し合って事業計画を作成する楽しさを実感できました。
- 今まで自分だけでは気づけなかったことなどがたくさんあり、協力することで目標の実現に近づく効果を体感できました。
- 「ありたい姿」を共有することが、企画や話し合いにおいてとても大切だということを、ワークを通して体験することができました。
- 地域住民主体で何かをやってみる、一歩進むことの大切さを改めて感じました。
- 企画案を作成する活動は、コミュニケーションや対話が必要であり、その対話によって、自分だけでは思いもつかないようなアイデアなどが生まれてきました。「ありたい姿」を目指す目的の第一歩は、やはり対話なのだ改めて気づかされました。



研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで  
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp